

世界の人びとのための JICA基金

2020

応援を
カタチに！



世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金」では、市民の方々に寄附を通じて国際協力に参加いただき、その寄附金を財源にNGO/CSOなどが行っている国際協力活動を支援しています。

寄附を通じて皆様の想いを途上国の人びとに届け、平和で豊かな世界の実現に向けてともに貢献していきたいと考えております。



2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) を設定しています。

SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要です。そのために、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)も求められています。

JICAはSDGsの達成に貢献すべく、さまざまなステークホルダーとの連携を強化し活動に取り組んでいます。その一つが「世界の人びとのためのJICA基金」(JICA基金)です。

2019年度も、多くの方々や団体の皆様の寄附により、貧困や飢餓に苦しむ人びとの生活向上、医療や教育の提供、環境問題、災害復興支援等において、8件の活動を支援することができました。

皆さまの温かい想いに深く感謝申し上げます。

2019年度JICA基金活用事業の紹介

団体名／活動国

事業名

<通常枠>

NGOネパール『虹の家』／ネパール

2015年ネパール大地震
被災地の子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくり支援活動

マナラボ 環境と平和の学びデザイン／フィリピン

小規模農家によるコーヒー生産のための加工・運営指導プロジェクト

特定非営利活動法人礎の石孤児院／ザンビア

ザンビア共和国:孤児およびストリートチルドレンのための奨学金支援事業

特定非営利活動法人日本ボリビア人協会／ボリビア

アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出

特定非営利活動法人コーヒー生産地と協働する会／ルワンダ

ルワンダのコーヒー生産地における持続的生産におけた土壌改良及びポテト臭解決のための支援

特定非営利活動法人POMk Project／インドネシア

インドネシア:西ヌサトゥンガラ州中央ロンボク郡・ジョンガット地区教員に対する健康教育支援事業

<チャレンジ枠>

2019年度より、国際協力活動開始前である団体・個人あるいは開始直後2年未満の経験が浅く、実績の少ない個人・団体を対象にチャレンジ枠を新設しました。チャレンジ枠初年度には、1団体と1名が新たに国際協力活動に挑戦されました。

根本千里／ルワンダ

グルテンフリーやビーガン商品を扱うベーカリー事業を通じたルワンダ女性の自立支援

特定非営利活動法人River Aid Japan／カンボジア

カンボジアの豊かな水を活かしたカヌー連盟選手及びコーチの人材育成プロジェクト

対象国×実施団体名



2019年は7か国で8案件が開始され、
4案件が完了しました。
本ニュースレターでは、これら4案件の活動をご紹介いたします。

※世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、JICA事業関係者の安全を第一優先とし、一部事業を中止しています。今後、活動国における安全が確認でき次第、順次活動を再開する予定です。



2015年ネパール大震災 被災地の子どもたちと女性のための復興コミュニティづくりへの支援活動

対象国:ネパール 団体名:NGOネパール『虹の家』



活動報告

被災地支援「新サヌタリ村プロジェクト」はJICA基金を活用し有機栽培農業を始め、農地借り上げ、ビニルハウス設置、収穫から販売まで順調に進みました。収穫した野菜は村の女性たちが調理し、学校給食へ提供しています。女性たちには「職と収入を得て子どもたちに質の高い教育を」という願いがあり、農業への期待がふくらみます。「女性自立支援プロジェクト」、洋裁研修3年計画の2018年は、スクールシャツ制作によるミシン技術習得。2019年は、オリジナル商品制作と販売、そして「SAHAYOGI」（自立した女性）グループを組織し、2年後のソーシャルビジネス起業を目指しています。「スクールプロジェクト」では、給食から始まる「食と健康」に取り組んでいます。

有機栽培野菜メニュー < 青菜のおひたし > をいただく幼児クラスの子どもたち

団体からの声

支援対象のオクレニ小中高校、スングリジャル小、バグドゥワル小3校の先生方、そして、サヌタリ村の人々に「日本のみなさまからの善意によるJICA基金」の意義を伝えると、「子どもたちのためにありがとう」と、感謝の言葉をいただきました。各校、給食が始まり登校する子どもが増えたそうです。「清潔で健康的な学校生活」を目標に、給食に関わる衛生環境改善にも寄附金を活用させていただきました。



サヌタリ村での有機栽培農業は“地産地消で村の収入を高める”という目標を持つことができました。また、女性たちは「農業」と「洋裁技術」そして「地域ボランティア活動」など、多様な働き方が持てるようになり、「震災前より豊かなくらし」が実現できそうです。



小規模農家によるコーヒー生産のための加工・運営指導プロジェクト

対象国:フィリピン 団体名:マナラボ 環境と平和の学びデザイン



事業紹介

フィリピン・ルソン島北部山岳地方では森林破壊を食い止めるためにコーヒーのアグロフォレストリー栽培が広がっています。しかし、農家には品質のいいコーヒー豆を生産するために必要な機材や、コーヒー豆の品質についての知識がありません。この事業では、新しいコーヒー生産地の一つであるサグボ村の小農で組織される農家組合を対象に、地域で活動する環境NGOと協働し、高品質の豆生産に欠かせないプロセスである、コーヒーの実の皮を迅速に剥くための果肉除去機と、適切な乾燥に必要な資材の支給を行いました。また、それらの適切な使用のために、日本人専門家などによる加工技術トレーニングを行いました。さらに機材を組合として共有管理していくための組織強化の講習会、将来の生産量増加時に備えたフェアトレードについての講習会も開催しました。

この事業で支給された果肉除去機をつかったトレーニング

団体からの声

これまでサグボ村では収穫後の皮むきなどの作業は杵と臼という原始的ともいえる道具で行ってきました。収穫量が増えるとともに、その作業は農家にとってとても大きな負担となっていました。中にはせっかく実をつけたコーヒーの収穫をあきらめた人もいました。この事業で支給した果肉除去機を組合の人たちは共同で使い、重労働から解放され、迅速なポストハーベストプロセスにより、コーヒー豆の品質は大きく向上しました。現地協力団体のNGOによると、昨収穫期に1トン近く生産したサグボ村のコーヒー豆は大変評判がよく、すべて良い値段で販売が終了したということです。コロナ禍でフィリピンでは厳しい移動制限が今も続いています。十分に乾燥させれば保存のきくコーヒー豆は、サグボ村の人たちの暮らしの大きなサポートになりました。



インドネシア：西ヌサトゥンガラ州中央ロンボク郡 ・ジョンガット地区教員に対する健康教育支援事業

対象国：インドネシア 団体名：POMk Project



活動報告

リゾート地として有名なインドネシア・バリ島の隣に、西ヌサトゥンガラ州・ロンボク島があります。ここはインドネシアの中でも所得が低く、高い乳幼児死亡率に苦しんでいます。また、2018年にはマグニチュード7以上の地震を3回経験し、いまだに避難生活を余儀なくされている方もおられるなど、住民の健康に関する支援が必要とされる地域です。

私たちは同じように震災の被害を受けた福島県発のNPO法人として、当地域の健康状態を向上させたいと考えています。その第一歩として、今年は小中学校の先生約20人に健康教育のノウハウを伝えました。先生だけでなく地元の大学生との協力体制も確立し、のべ300人程度の小中学生に、学習会を通じて楽しく体のことを学んでもらいました。

団体からの声

先生だけでなく、子供たちや親御さんからもJICA基金への感謝の声が届いています。私たちの学習会は臓器パズル、風船製肺模型、灯油ポンプ製心肺装置など「身の回りにある品物を使って自分で教材を作って、楽しく体の働きを学ぶ」ことをモットーにしています。楽しく学ぶためには、子供たちにとって親しみやすい、大学生のお兄さんお姉さんの協力も必要です。子供たちがみんなで笑いながらも学んでいく、そんなところを見られるのが、この活動の原動力です。日本とインドネシアでは求められる内容も若干違いますが、私たちは日本国内でも活動しておりますので、ご興味のある方は是非お問い合わせください。暖かいご支援ありがとうございました。

みんなで相談して臓器パズルを完成させよう！



カンボジアの豊かな水を活かしたカヌー連盟選手及び コーチの人材育成プロジェクト

対象国：カンボジア 団体名：River Aid Japan



事業紹介

カンボジアカヌー連盟に所属する選手及びコーチが、トレーニングのために必要な知識を身につけ、それを継続的に実践することで知識やノウハウが定着すること、また、カヌー競技の知識が蓄積していくために、教材を作成し、関係者全員が利用できるようにすることを目標としました。

これらを達成するため日本から指導者を招聘し、その指導をベースに各種大会等で活躍できる選手やコーチを育成し、生活の安定に導くことが出来る事を目的として活動しました。選手は、経済的理由や仕事との調整等の関係もあり継続してトレーニングできないため、知識やノウハウが定着しない部分も数多くありましたが、教材等の作成・活用で指導者・選手の意識の変革に少しは繋がった活動となりました。

団体からの声

日本からカヌー競技専門家を招聘し、水上トレーニング、陸上トレーニング、栄養指導、および水辺の環境指導についての講習を行うとともにカヌー教本(モノクロ版60P)及び栄養教本(カラー版30P)を作成し選手に配布しました。両教本ともカンボジア初となる教本であり、選手が将来コーチになった時も指導できる内容となっています。視覚で理解できるので、字の読めない選手でも教材を積極的に手に取って確認していました。これまでは、言われるままの活動であったのが、自分で考える姿勢が見られるなど意識の変化が見られました。

JICA基金活用事業(チャレンジ枠)は、当団体にとって初めての経験でしたが、様々なことを勉強させて頂き当団体の成長につながったと思います。

陸上での漕法の技術指導の様相



2020年度 採択案件

2020年度は次の10件を実施する予定です。

団体名／活動国

事業名

(通常枠)

NGOネパール『虹の家』／ネパール

2015年ネパール大震災 被災地の子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくりと学校教育支援事業

特定非営利活動法人POMk Project／インドネシア

インドネシア: 大学-小中高等学校間の連携支援を通じた西ヌサトゥンガラ州・ロンボク島での健康教育の拡大

特定非営利活動法人Support for Woman's Happiness／ラオス

ラオス: 少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり

Rwanda Children's Hope／ルワンダ

ルワンダの虐殺の影響と貧困の連鎖から地域の子子どもたちが未来に羽ばたく教育の機会を継続的に提供

NPO法人YOU&MEファミリー／バングラデシュ

バングラデシュにおける女子生徒の経済的および社会的自立を目的とした洋裁クラブ活性化プロジェクト

特定非営利活動法人Little Bees International／ケニア

ケニアにおける循環型社会形成を目指したりサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業

特定非営利活動法人ひろしま・カンボジア市民交流会／カンボジア

カンボジア: 貧困家庭児童への教育・給食支援事業

(チャレンジ枠)

チーム 夢のかけ橋／ブータン

ブータンでの脳卒中デイサービスセンター設立のための人材育成

遠藤 源一郎／マダガスカル

マダガスカル東部沿岸域農村における地域魅力教材づくり

カディプロジェクト／インド

インド・ビハール州における雇用創出による女性のための糸紡ぎの技術支援・就労支援事業

2019年度 収支報告

2019年度(令和元年度) 世界の人びとのためのJICA基金寄附実績		
	件数	金額(円)
個人	483	2,251,000
法人・団体	46	15,364,907
合計	529	17,615,907

2019年度(令和元年度) 寄附金使用実績		
	件数	金額(円)
配分事業 (2019年度新規分)	8案件	4,904,325
運用経費 (2019年度寄附金収入額の 10%以内)	寄附金システム費 その他	891,374
次年度繰越		11,820,208
合計		17,615,907

各実施団体のより詳しい事業内容は、
下記サイトの「事業完了報告書」にあります。

ぜひそちらもご覧ください!

JICA寄附サイト: <https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>



世界の人びとのためのJICA基金ニュースレター 2020発行
独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル
TEL:0800-100-5931 (寄附専用ダイヤル)